

## 令和5年度 佐々木喜善賞受賞作品

### 1 佐々木喜善賞

◇【受賞作品】論文「別次元の『遠野物語』から「遠野神話」の古層へ 一事実、昔話・伝説を超えて」

【受賞者】樋口和憲（東京都世田谷区）

【講評】

柳田国男がなぜ「山人論」から撤退したのかという普遍的な問題を視点としながらも、『遠野物語』を新しい切り口で読もうとする挑戦に満ちた論文。内容のスケールが大きく、根源的な発想の転換に導かれるような爽快感がある。

◇【受賞作品】小説「せつなの瀧 ～佐々木喜善・伝承蒐集異聞～」

【受賞者】高橋政彦（岩手県盛岡市）

【講評】

主人公がテレビのお宝鑑定番組に出演し、古物商から購入した佐々木喜善の未発表原稿の真贋を鑑定してもらうという小説。テーマ設定が斬新で、構成力、文章力共に完成度が高い。筆者が喜善に対峙し、喜善を愛しているのがわかる作品である。

◇【受賞作品】小説「神楽蛹」

【受賞者】長村智美（東京都葛飾区）

【講評】

明治晩年から大正時代にかけての北上高地に囲まれた吉神村を舞台とした小説。当時の日本の暮らしが端的に描かれており、炭焼き、赤子の間引きの描写などは異様なリアリティがある。作品の暗さの中には『遠野物語』の原点が散りばめられている。

◇【受賞作品】漫画「六地藏」

【受賞者】佐々木基成（東京都西東京市）

【講評】

佐々木喜善の白昼夢的体験を描いた漫画。宮沢賢治の「そこでは、あらゆる事が可能である。人は一瞬にして氷雲の上に飛躍し大循環の風を従へて北に旅する事もあれば、赤い花杯の下を行く蟻と語ることもできる。」という一節を想起させる。佐々木喜善の人物像の描き方、マジック・リアリズム的世界観に魅力を感じる作品である。

## 2 奨励賞

応募作品の中で最後まで選考に残り優れた作品に対し、特別に奨励賞を設け表彰する。

◇【受賞作品】論文「馬娘婚姻譚の研究 一馬と娘の婚姻と桑の関係性―」

【受賞者】大西はる花（東京都練馬区）

【講評】 『遠野物語』のオシラサマの話の起点として、そこから生ずる疑問点や問題意識を忠実に追った論文。先行研究や和漢洋の古典にまで論究し、「馬娘婚姻譚」「桑のフォークロア」の二本立ての構成内容は評価に値する。

## 3 特別賞（こども賞）

応募作品の中で優れた作品に対し、特別賞としてこども賞を設けて表彰する。

◇【受賞作品】エッセイ「砂鉄の香りに引き寄せられて～遠くにあった遠野と私の三年間の不思議な思い出～」

【受賞者】佐藤せり花（東京都北区）

【講評】 筆者が小学5年生の時、身近な川の砂鉄の比較研究をしていく中で、母方の実家のある岩手や遠野に興味を抱く。いろいろな疑問を自分の視点で捉えたエッセイ。中学1年生とは思えない資料の収集力、文章の表現力が素晴らしい作品である。

以上